

昭和55年8月26日第三種郵便物認可 平成元年11月20日発行(毎月1回20日発行)

# ともえ

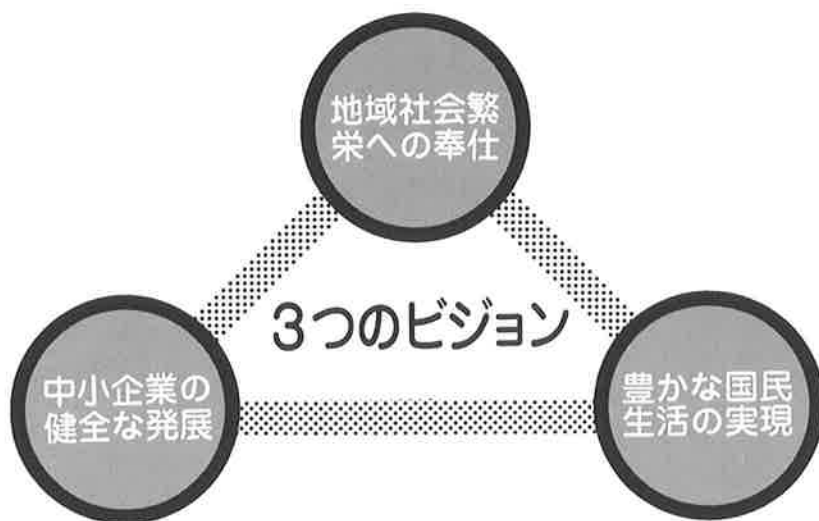


行動する  
はつらつたる  
商工会議所



旧北海道庁函館支庁庁舎(旧渡島支庁舎、市指定の有形文化財)

No. 103 函館商工会議所報  
1989 — 11月号



はこしんは豊かな暮らしと  
確かな未来の実現に  
お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL 22-1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42-3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23-6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51-1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41-6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL 73-2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52-0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL 84-2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26-3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65-2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51-5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2-3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57-1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5-5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53-5521(代)			

視 点	1
会議所の動き	2
地域の景気	8
調査レポート	10
共済推進コーナー	14
テイータイム	15
アドバイスコーナー	16
Q & A	18
新会員ご紹介	20
情報コーナー	26

◇表 紙

旧北海道庁函館支庁庁舎  
 (旧渡島支庁舎、市指定の有形文化財)  
 明治四十二年(一九〇九)、宗田技師  
 設計、請負鈴木仙蔵、二階に張り出した  
 屋根を四本の巨大なエンタシス風の柱(頭が細く中央部がふくらみを持つ)で支えた柱廊玄関という古典様式に和風を加味した二階建ての建物。

● 視 点

暖くそして雨の多かった秋も終り、新しい年号の平成元年は、あと一月余を残すのみとなりました。

今年、青函トンネル開業一周年を記念しての、青森、函館両市によるツインシティ提携があり、続いて多くの経済文化団体が同様の協定を締結し、文字どおり青函経済文化圏を形成する初年度として、一歩前へ進むことができました。また、このための指針となるべき交流計画も策定され、大きな共同事業としてのユーロパリア・ジャパン、89フェスティバルも、両市の三百人を越す市民が参加し、成功裡に終了しました。

特に今年は青函博に代るような大イベントがないにも拘わらず、観光客の入込みも多く、また、企業の設備投資や住宅建設も続伸しており、景況は良好な状況にあります。

現在の活況は、個人消費の伸びと、企業の設備投資により支えられているようですが、この経済の活況がさらに所得を増加させ、生活水準の向上による高級かつ本物指向の傾向とともに、週休二日制等の自由時間の増大が小旅行の急増や消費の拡大に結びつき、良き循環を続けています。

しかし国内、特に地方では、なお長い労働時間や内外価格差の問題、そして欧米先進国に比し遅れている道路・下水道などの社会資本の充実等を解決し、真に生産力に見合った豊かさを享受する必要があります。函館の有効求人倍率はまだ低く全国平均の半分程度です。良い郷土を築くために人材を確保、育成し明年も大いに頑張らしましょう。

# 会議所の動き



## 企業の原動力 高藤さん(北海道)ら298人を表彰

31回優良商工  
従業員表彰式

第三十一回函館商工会議所・優良商工従業員表彰式は、平成元年十一月二十四日午後三時から、市長・渡島支庁長をはじめ多数の来賓のご臨席のもとに、駅前拓銀ビル八階ホールで開催され、八十八事業所から二百九十八人が表彰を受けました。

最初に主催者を代表して川田会頭より「青函インターブロック交流圏計画の策定を期に、ツイン

ティ、ツイン商工会議所の締結がなされる中で、両市における交流事業計画も策定され、青函経済圏が一層活性化することが期待されるので、皆様におかれましてもこれまででの経験と英知を結集し新たな青函圏形成のため、努力され住みよい豊かな函館を築いて欲しい旨の挨拶がなされました。

これに対し受彰者を代表して、高藤喜八郎氏から「本日、栄誉ある表彰式を迎えることができたのも、事業主をはじめ職場の同僚等の深いご理解があればこそであり、今後も初心を忘れず、なお一層の努力を積み重ねて参ります」と謝辞が述べられました。

当日の表彰者は次の通りです。

### ◎勤続四十年以上

- 高藤喜八郎 (北海道日産化学(株))
- 寺井剛一 (㈱ニチレイ函館工場)
- 仁木幸子 ( )
- 竹本恵美子 (函館信用金庫)

### ◎勤続三十年以上

- 進藤正紀 (今宮崎安吉商店)
- 出崎昭三 ( )
- 高梨庄太郎 (父函館船具(資))
- 味田貞二 (㈱丸井今井函館支店)
- 吉崎 滋 (㈱久保内商店)
- 石沢登志栄 (函館定温冷蔵(株))
- 松沢大三郎 ( )
- 工藤春義 ( )
- 高橋悦男 ( )
- 工藤忠雄 ( )
- 和田千代美 (㈱五島軒)
- 市田潤次 ( )
- 本川和男 (㈱白百合商事)
- 藤本克英 (函館酸素(株))
- 斉藤正男 (㈱渡辺商店)
- 大辻陽子 ( )
- 対馬恒毅 (㈱春野商店)
- 中野和雄 (㈱ティーオー小笠原)
- 斉藤良治 ( )
- 菊地忠光 ( )
- 後藤勉 (西野事業(株))
- 岡島紀正 (ハコー印刷(株))
- 渡辺謙次郎 (北海道製菓(株))
- 見上善弘 (函港作業(株))
- 若松平次郎 ( )
- 飯島健一 (函館信用金庫)
- 形浦総和 ( )

加藤貞子（函館信用金庫）

住山大蔵（〃）

立島富茂（〃）

谷口州司（〃）

布施紀明（〃）

安田紀宏（〃）

吉岡順二（〃）

◎勤続二十年以上

（四十六事業所百一人）

代表 菊田和子（奈良機械店）

◎勤続十年以上

（六十一事業所百五十九人）

代表 新谷悦郎（明友商事株）

（勤続十年・二十年については代

表者のみ掲載）

# 会員増強で約400件が加入 第5回総務委員会開催

去る十一月一日、第五回総務委員会が本所会議室で、高野担当副会頭をはじめ、山田委員長、小島・森川両副委員長など委員九名が出席して開催されました。

会議では、山田委員長と高野担当副会頭の挨拶の後、まず、事務局より本年七月から行われた会員増強運動について会議所をあげて活発な加入要請活動を展開した結果、十月末日現在で三百九十三件、八百六十五口の新規加入があった旨の報告がなされ、議員の中で十件以上の加入を行った方に対しては何らかの報償を考えたかどうか

の意見があり、その扱いについては正副委員長に一任されました。

また、本年二月一日スタートした年金共済制度の第三回募集の結果、約四千百名（十月二十八日現在）の加入者となりましたが、目標の五千名の加入にはまだ程遠いため、この制度の特色である高配当の活

用により将来の生活設計にも充分役立つ制度であることを周知徹底し、さらに、加入促進について委員会としても努力を重ねていくことを申し合わせました。

つぎに、平成八年に迎える本所創立百年に対する記念事業について協議が行われ、記念誌の発刊、本所会館の建設、記念式典・祝賀会、そしてこれらのための資金計画などに対して意見が出され、結果として、これらの記念事業を所管する実行委員会（正副会頭、各部長、委員長の十七名で構成）を設置し、推進することとし、十二月の臨時議員総会に議案として提出することを委員会として決定しました。

部新技術産業課内藤補佐とテクノポリス函館技術振興協会の柿田専務理事より次の二件について説明と要請がなされました。

(1)財団法人テクノポリス函館技術振興協会が発足以来五周年を經過し、着実に地域産業の技術水準の向上に寄与しつつあるが、その運営基盤となる財団の基金規模が今尚目標額に達していないので経済界から引き続き寄付金の拠出を依頼する件

(2)昭和六十一年に開設された工業技術センターも、既に研究開発面では成果をあげており、地元企業の利用も年々増加し研究体制にも支障を来す状況もみられることから、今後民間企業から研究員を新たに四名派遣方依頼の件

(1)の件については関係機関協議のうえ目標額に向け募金活動に努力することを申し合せ、(2)の件については当日出席議員の数が研究員派遣を検討してみることになりました。

# 工業部会・テクノポリス委員会 合同部会開催

本所テクノポリス委員会と工業部会所属議員の合同会議が去る十

一月二日開催されました。会議では、まず道商工労働観光

## 新幹線早期実現等の要望を決議 第1回青函圏特別委員会合同会議

青函経済圏の確立を目指す、函館・青森両商工会議所の青函圏特別委員会合同会議の初会合が去る十月二十四日(火)、青森市国際ホテルで開催されました。

青函インターブロック交流圏計画の策定を期に、青函トンネル開通一周年に当る本年三月、両市・両商工会議所がツイン(双子)提携をしました。

これを機に両商工会議所は、それぞれ設置の青函圏特別委員会において、ツイン協定に伴う主要事業などの具現化について協議するほか、年二回、交互に合同会議を開催し意思の疎通をはかることになりました。

第一回の会議には本所側から川田会頭、西野青函圏特別委員会委員長はじめ十一人、青森側は沼田青森商工会議所会頭はじめ十六人が出席しました。今後の事業として

①交流活動のための多目的基金の

造成(活動資金の確保)②青函サミットの開催③青函観光連絡協議会(仮称)の設立④津軽海峡線の全面複線化早期実現等三十一項目を協議決定しました。

また、合同会議の決議として、新

## 道南の抱える問題を協議 みなみ北海道広域商工振興連絡協

みなみ北海道広域商工振興連絡協議会(会長川田寛函館商工会議所会頭)の今年度第二回協議会が、去る十一月十七日、熊石町の国民宿舎「ひらたない荘」において開催されました。

当日は、同協議会副会長の本所下郡山副会頭をはじめ、道南の各商工会長ら三十名余りが出席し、平成元年度事業として取り上げている青函インターブロック交流圏

幹線盛岡以北の早期実現、青函両港湾施設の利用促進とウオーターフロント開発促進など七項目を、関係機関に要望することを申し合せました。

尚、次回は平成二年二月八日、函館市において、ウオーターフロント開発をテーマに開催することとなりました。

計画の推進、総合保養地整備法(リゾート法)の地域指定に向けての協議が行われました。

その後、道南圏域共通の懸案となっている地域活性化事業、観光振興対策について、地元熊石町の山田水産商工課長から温泉の多目的利用の開発事例、また、当日の来賓としてお招きした北海道振興協会会長久末鐵男氏からは、既に開発に着手している江差町、奥尻町、

函館市の現状と今後の方向を含め「私の考える道南観光」と題しての講話が行われました。

協議会は、みなみ北海道地域の経済界唯一の連合組織体として、今後地域抱える様々な課題に取り組んでいきます。



## 空・陸の陳情活動を展開 滑走路拡張と大阪便再開を要望

昨年三月の青函トンネル開業をはじめ、今年の函館・東京線の日航機就航等、交通をめぐる大きな変革の波の中にある当市において、懸案となっている空・陸の諸問題の解決に向けてさらに陳情活動が活発に繰り広げられています。

その中でも、函館空港整備促進連絡協議会では滑走路三千メートル拡張工事の早期着工と函館・大阪間直行便の再開を要望するため、去る十月十七日から三日間にわたり、安井函館市助役をはじめ磯田渡島支庁地方部長、本所平野専務理事などが大蔵省を始めに運輸省そして、大阪府や大阪航空局などに陳情しました。

まず滑走路三千メートル拡張工事については、昭和三十六年の開港以来、施設拡充が計画的に進められてきた同空港の平成元年度の年間乗降客が百三十万人を上回る見込みであるなど、今後も北海道

において千歳空港に次ぐ地方基幹空港としての役割が一段と強まっていることから、第五次空港整備五ヶ年計画の最終年次を来年度に控えての陳情となりました。当局からは冬期間における安全運航や将来における利用客の動向を勘案しつつ十分に検討してみたいとの意向が示されました。

現在休止路線となっている函館・大阪間直行便の再開については地元でも古くからつなごりのあつた関西方面との交流をすすめるために大阪便の再開を望む声が高まってきました。全日空としても函館・大阪便は、国内における重要な路線として再認識され、再開の動きを高めている中で、騒音問題を抱えている関係団体に対して、ご理解を戴くためにも地元としての熱意を示すことが必要であることから、数年前より要望を続けてきたものです。

当日の陳情では大阪空港の特殊性から、休止便の再開には色々と問題もあるが、関西新空港の平成五年開港を控えて従来とは異った動きもある中で、住民意向も尊重しつつ検討をすすめてみたいとの意向が示されました。

また、北海道縦貫自動車道建設促進道南地方期成会では本年、整備計画区間に組み入れられた七飯―長万部間の調査促進とともに函館地域での建設事務所の設置及び

## 「函館工業会館」が落成!

函館機械金属造船工業協同組合連合会(会長 村瀬順一郎氏)等が中心となって、その建設に着手してきた「函館工業会館」が市内浅野町の鉄工団地内に完成し、去る十月二十六日に同会館内で、落成式が盛大に執り行われました。

これは、鉄工業界が永年熱望してきた会館建設が実現されたもので同会館は一階を組合事務所、二階を会議室等として使用されており、今後は関係する情報提供や技

工事に当っては函館側からの同時着工などについて去る十一月十五日、木戸浦函館市長を中心に松本市議会議員、本所松本副会頭などが、建設大臣や日本道路公団総裁、北海道開発庁長官に陳情しました。一方、十月十九日には、北海道商工会連合会渡島支部と函館・森両商工会議所など経済団体が独自に、関係方面に強力な陳情を行いました。

術振興などの場として活用されること期待されるほか、当市がかねてよりその実現に向けて努力を重ねてきた「テクノポリス函館」の推進役としての役割をも果たすことが期待されています。

## 五稜郭商店街東街区 整備事業が終了

函館五稜郭商店街地区は、昭和六十年の通産省によるコミュニティ・マート構想のモデル事業地区の指定を受けて以来、本町交差点を中心に行啓通りを文化軸、電車通りを情報軸と位置づけて、北街区（行啓通り）と南街区（中央病院側）のそれぞれ街路整備等を行ってきましたが、この度、第三期目の東街区（本町交差点から松陰

町方面に向かう約三百メートルの間の街路整備事業が竣工し、去る十一月六日には、これを祝う式典と新たに設置された街路灯に付設されたイルミネーションの点灯式が、ホテル法華クラブにおいて関係者多数が出席する中で、盛大にとり行われました。

コミュニティ・マート構想のモデル事業は、当商工会議所をはじめ北海道や五稜郭商店街振興組合（小林昭理事長）等が主体となっ



## 再開発の整備状況等を視察 塩釜・八王子会議所相次ぎ来所

本紙所報の通り、去る十月二十六日、三十日の両日、相次いで視察団が当市を訪れました。

今回訪問されたのは、塩釜市から坪田耕一塩釜市観光協会会長を

て「文化と情報のクロスタウン」をテーマに、近代化されそして、憩いとやすらぎのある商店街の実現を目指すともに行啓通りのシンボルロード街路整備事業（建設省）とあわせ五稜郭地区の商店街を活性化し、機能整備をすすめるための柱となる事業として強力に推進されてきたものです。

この度の東街区整備事業では、約一億一千万円の事業費を北海道と同組合で負担し、洒落れた街路灯（二十七基）や電話ボックス（二基）が設置されるなど、「文化の街」にふさわしい街並みへと生まれ変わりつつあります。

塩釜市は当市と同様にポートルネッサンス21構想地区に指定されていることから、港湾の整備と、JRが土地を所有している駅前地区を含めた市街地の再開発が急務とされています。そのため懇談は当市のポートルネッサンス21に基づく整備計画と現状、ウオーターフロント地区の再開発等が中心話題となり、その後第三セクターで運営されている函館山ロープウェイを訪れ、現地視察と懇談会が行われました。

一方、八王子市は東京という大消費地が時間距離一時間でひかえていることから、駅前ロータリーの回遊性を高めることと、大学誘致による年間二万人もの人口増に対応するための活性化事業に取り組んでおり、懇談では当市の五稜郭商店街コミュニティマート構想モデル事業について特に活発な意見交換が行われました。

両市とも再開発にかける熱意は高く、有意義な視察懇談会となりました。

団長とする「塩釜市再開発促進期成同盟会」の一行十五名、八王子市から黒沼章商工会議所副会頭を団長とする「八王子商業振興対策委員会」の一行十六名です。



# 事務局日誌 10月

- \*部会
  - 5(休) 観光サービス部所属議員と市議会市政クラブとの観光問題懇談会
- \*委員会
  - 4(休) 青函圏特別委員会合同会議事務打合せ会議
  - 23(月) 青函圏特別委員会正副委員長会議
  - 24(火) 第1回函館・青森商工会議所青函圏特別委員会合同会議
- \*正副会頭会議
  - 6(金) 第28回正副会頭会議
  - 23(月) 第29回正副会頭会議
- \*会議 (日商)
  - 19(木) 第377回常議員会
- \*審査会
  - 13(金) 小企業等経営改善資金の審査会
- \*諸会議
  - 3(火) 特定地域中小企業振興計画推進会議
  - 6(金) 船橋商工会議所一行との商店街視察に伴う懇談会
  - 7(土) 函館市地方港湾審議会
  - 13(金) 函館市自衛隊協会役員会・懇親会
  - 〃 北海道生命共済振興会事務担当者会議
  - 16(月) みなみ北海道広域商工振興連絡協議会常任幹事会
  - 17(火) 国立函館大学誘致促進期成会「国立函館大学の学部検討委員会」
  - 19(木) 函館市社会福祉懇話会第1分科会
  - 20(金) 開港130周年記念函館港まつり反省総会
  - 23(月) 函館情報技術開発センター取締役会
  - 26(木) 塩釜市再開発促進期成同盟会による先進商工地視察に伴う懇談会
  - 27(金) 北海道テクノポリス検討協議会
  - 〃 横路北海道知事と道経済3団体との懇談会
  - 〃 函館都心商店街振興組合第10回近代化推進委員会
  - 30(月) 八王子商業振興対策委員会による先進商業地域視察に伴う懇談会
  - 31(火) 第2回渡島・松山地域雇用開発会議
- \*陳情・要望
  - 16(月) 函館空港滑走路延長並びに函館・大阪便再開に関する陳情
  - 19(木) 北海道縦貫自動車道の建設に関する陳情
- \*講習・催物
  - 3(火) 複式簿記講習会
  - 5(木) 記帳講習会
  - 6(金) 販売促進セミナー「競争激化を乗り切る企画・販促のすゝめ方」
  - 〃 複式簿記講習会
  - 9(月) 情報化月間特別講演会【講師・日本電気(株)関本社長】
  - 11(水) 経営相談
  - 12(木) 函テクノポリス函館技術振興協会「ニューメディア講演会・技術講習会」
  - 〃 記帳講習会
  - 13(金) デンマーク・セミナー
  - 〃 複式簿記講習会
  - 16(月) 函館経営者協会セミナー「新規開拓力強化講座」
  - 17(火) 複式簿記講習会
  - 18(水) 発明相談

- 19(木) 労働保険事務取扱研修会・雇用保険法の一部改正に伴う説明会
- 〃 記帳講習会
- 20(金) 複式簿記講習会
- 21(土)~22(日) 函テクノポリス函館技術振興協会「道立試験研究機関公開講座」並びに「'89 ハイテックフェスティバル」
- 22(日) '89渡島地域ニューフロンティア・フェスティバル「市町村対抗ふるさと自慢うた自慢」
- 24(火) 複式簿記講習会
- 25(水) 日経産業新聞セミナー
- 26(木) 記帳講習会
- 〃~31(火) 第35回函館地方児童生徒発明工夫展並びに第13回函館地方発明工夫展
- 27(金) 法律相談
- 〃 複式簿記講習会
- 28(土)~30(月) 「第9回みんなの消費生活展」
- 30(月) 複式簿記講習会
- \*検定試験
  - 1(日) 第5回1・2級ワープロ検定試験
  - 4(火) 第17回2級販売士検定試験
  - 22(日) 第127回珠算能力検定試験
  - 〃 4級ワープロ検定試験
- \*刊行物
  - 20(金) 所報「ともえ」No102 (10月号) 発行
- \*相談・診断
 

金融	151	税務	60	経理	32	経営	51
労働	5	取引	1	その他	0	計	301
- \*貸室
 

本館	28	別館	4
----	----	----	---
- \*文書
 

受信	233	発信	17
----	-----	----	----
- \*慶弔・その他
  - 1(日) 全国身体障害者スポーツ大会への天皇・皇后両陛下御臨席に伴う奉迎
  - 2(日) 天皇・皇后両陛下離宮のための奉送
  - 〃 経営指導員研修(工業近代化の指導法)
  - 3(火) ユーロバリア'89日本祭視察団解団式
  - 4(水) 函日本経済調査協議会による「産業構造の変化と雇用」調査
  - 7(土) 加藤前副会頭1周忌法要
  - 9(月) 日本電気(株)関本社長との懇談会
  - 12(木) '89渡島地域ニューフロンティア・フェスティバル開会式
  - 13(金) 創価学会「自然と平和との対話」写真展オープニング・セレモニー
  - 14(土) メイホク食品(株)本社工場竣工式・落成式
  - 〃 栗林商会発注、函館どつく(株)製造「ロールオン・ロールオフ貨物船」進水式
  - 15(日) 婦人会創立20周年記念式典、講演会並びに祝賀パーティ
  - 18(木) 函日本交通公社「JTB旅行クラブ第31回全国交歓会」
  - 19(木) 労働保険事務組合指導監査
  - 20(金) 全国いか加工業協同組合臨時総会・懇親会
  - 〃 函館巴太鼓創立20周年記念祝賀会
  - 23(月) 経営指導員研修(商業近代化の指導法)
  - 25(水) 日経産業新聞セミナー講師と日経関係者との昼食会
  - 〃 汚染負荷量賦課金及び拠出金に係る業務委託事務実態調査
  - 26(木) 函館圏企業誘致推進協議会「先端産業視察会観迎レセプション」
  - 〃 函館機械金属造船工業協同組合連合会「函館工業会館」新築落成式
  - 28(土) 北海道菓子卸商業組合函館支部「永年勤続優良社員表彰式」

67年の伝統と信用を誇る

## 早川特許事務所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所長 弁理士 早川 政 名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 946-0531 <代表>

**発明相談** 12月20日 水曜日午後1時から午後5時まで、函館商工会議所で相談をお受けいたします。相談は予約制になっていますので、商工会議所相談課(23-1181・内線63番)にお申し込み下さい。

た需要増加から繁忙感を強めており、増産態勢を堅持。一方漁網では、イカ流し網等のスポット受注に加え、定置網の出荷もみられたため、全体ではまずまずの生産・出荷水準を維持している。

#### (4)建設関連

管内主要管庁の公共事業発注額(9月分)は、一部地公体の発注が嵩み前年を5割方上回る水準(主要5官庁の月中発注額前年比+51.1%、進捗率86.1% <63年度同82.7%>)。また新設住宅着工戸数も、分譲、貸家の着工集中から前年を大幅に上回った(市内新設住宅着工戸数前年比+78.5)。

この間、建設関連筋では引き続き繁忙裡に推移しており、建設機械の増設を企図する動きも目立っている。

#### (5)農 業

主力水稻は、9月下旬以降の降雨により収穫作業の遅れがみられるものの、総じては「平年並み」の作柄を確保できる(渡島・檜山支庁10/15調べ、前年は渡島「著しい不良」、檜山「やや不良」)見込みにあり、その他大豆等も順調な収穫をみている模様。

#### (6)漁 業

近海マイカ漁については、漁獲量は引き続き前年を上回っているが、魚価は依然弱含みに推移。また秋サケ定置網漁は順調な滑り出しをみせている。一方真コンブは、ほぼ前年並みの採取量を確保しているものの、問屋筋の在庫積み上がりから荷動きはやや鈍化している状況。

#### (7)消費関連

9月の市内大型小売店(10か店)売り上げをみると、月半ば以降の冷え込みから秋

物衣料、身回り品等が盛り返したことを背景に、全体では前年を幾分上回る伸び(前年比+2.0%)。10月入り後も、季節商品等を中心に引き続き順調裡に推移している模様。また、耐久消費財では、自動車販売が引き続き好地合いを続けており(管内新車販売台数前年比+5.1%)、人気車種の納期が長期化傾向にあるほか、家電製品も、カメラ一体型VTR等の売れ行き好伸を主因に前月に比べ幾分伸びを高めた。

この間、観光・レジャー面をみると、秋季入り後も好調な入込みが続いており、年末年始にかけてのホテル予約状況もまずまずの出足をみせている模様。

### 3. 金融事情(9月中)

○実質預金は、当月末が休日という事情もあって法人預金が大幅滞留をみたほか、個人預金も小口MMCを主体に引き続き堅調に推移したため、月中254億円増と前年(67億円増)を大きく上回る増加。一方貸出も、受注好調な水産加工、建設業を中心とする増運需資や卸・小売業等の期末決済資金借入が嵩んだことから月中196億円増と前年(160億円増)を上回る増加となった。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は、新短プラへの切替え進捗等を映じ月中+0.023%と6か月連続の上昇となった。

○銀行券は、観光・レジャー資金の還流等を背景に月中55億円の還収超(前年同73億円)。  
○財政収支は、公共事業関係費の支払増加にもかかわらず、租税、保険の受入れに加え、資金運用部地方貸の回収も嵩み、月中99億円の受超となった(前年同104億円)。

9月

地域の

景気

—— 日本銀行函館支店 ——

### 1. 概 況

- 最近の管内経済動向をみると、内需堅調を背景に企業の売り上げ、生産は増勢基調を辿っており、管内景気は引き続き好調裡に推移している。
- すなわち、製造業では、旺盛な需要を背景に半導体、セメント、水産加工が一段と増産ピッチを引き上げており、段ボール、合板、乳製品等でもフル操業態勢を維持。また造船が新造船等を中心に操業度を高めているほか、合板機械でも受注持ち直しから操業度を引き上げはじめている。一方、非製造業では、建設関連筋が引き続き繁忙を呈しており、また百貨店売り上げも秋物衣料品等を中心に順伸、自動車販売も好地合いを続けている。観光面では、秋季入り後も好調な入込みが続いている。
- この間、雇用情勢をみると、有効求人倍率が上昇しているほか、新卒者の就職内定状況も好調な出足をみせている。
- 9月中の金融動向をみると、預金は法人預金の滞留を主因に前年を大幅に上回る増加。一方、貸出も期末決済資金を中心に前年を

上回る増加となった。こうした中、管内銀行の貸出約定平均金利は、新短プラへの切替え進捗を主因に6か月連続の上昇。

### 2. 主要業種別動向

#### (1)機 械

電子部品では、半導体がOA機器向けを主体とする能力増強投資の本格的立ち上げ等から増産ピッチを高めており、また水晶振動子も、漸次生産水準を引き上げている。造船では、大型船をはじめとする修繕受注が好地合いを続けているうえ新造船建造も順調なため、ここにきて構内下請工の補充にも着手。また、合板機械では、東南アジアからの受注持ち直しを映じ操業度を引き上げはじめている。製缶機械でもまずまずの生産水準を維持している。

#### (2)食 料 品

水産加工では、秋の物産展開催に伴う商談の盛り上がり等から、引き続き繁忙感を強める先が多く、中にはパート雇用期間の延長を目論む先も散見。また、乳製品も、飲用乳を中心にフル生産を続行。一方飼料・魚油では、魚油（輸出）が安値外国産の出回りを主因に不冴え裡に推移のほか、主力飼料も国際穀物市況の軟調等を映じて出荷ペースがやや鈍化。

#### (3)その他製造業

合板は、安値輸入品の流入減少傾向が続いていることもあって、家具・家電向け等の出荷が堅調に推移しており、段ボールでも、本格需要期入りに伴い水産加工、青果物（馬鈴薯等）向けを中心に能力一杯の生産を続けている。またセメントも、首都圏方面の大型プロジェクト工事進捗等を映じ

細業種でみると、設備工事業がやや厳しい見方をしているが、総合工事業は更に業績好転が見込まれる。

**【製造業】**

今期比D I 23.6、前年同期比D I 8.0といずれもD Iがプラスを示し、増産体制が見込まれる。

細業種でみると、年末需要期を迎える水産加工業と、受注が上向き傾向にある造船業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、増額を見込んでいる。

**【卸売業】**

今期比D I 23.8、前年同期比D I 17.4といずれもD Iがプラスを示し、増額基調が予想される。

細業種でみると、医薬品・化粧品業と燃料業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示しており、特に燃料業では季節的要因もあり、「減少」と回答する企業はなく、業績好転が予想される。

**【小売業】**

今期比D I 10.4、前年同期比D I 10.6と、いずれもD Iがプラスを示し、増額基調が予想される。

細業種でみると、各種商品販売業、衣服・

身の回り品販売業、食料品販売業では今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、売り上げの伸びが期待されるが、好調を維持してきた自動車販売業では、やや先行きに不安をみせる企業が多くなっている。

**【サービス業】**

今期比ではD I △8.0とD Iがマイナスを示しているが、前年同期比ではD I 8.0とプラスを示し、増額基調が見込まれる。

細業種でみると、季節的要因もあり・ホテル・旅館業では業績悪化を予想する企業がやや多くなっているが、クリーニング・理美容業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、業績好転を見込んでいる。

**3. 資金繰りについて**

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とする企業7.0%に対し、「悪化」とする企業5.9%で、D Iは1.1を示しており、「変わらない」とする企業が87.1%を占め、ほぼ今期並みに推移される見通しとなっている。

これを業種別にみると、建設業D I 8.0、製造業D I △4.1、卸売業D I 2.3、小売業D I 2.3、サービス業D I 0.0を示しているが、各業種とも80%以上の企業が「変わらない」としている。

**統 計 資 料**

第一種函館市内大規模小売店舗売上高 (10店) 平成1年9月

品 名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	2,940,180	131.0	101.7
身 回 品	558,735	107.8	110.3
雑 貨	592,777	88.3	101.6
家 庭 用 品	725,125	109.3	98.8
食 料 品	1,510,721	81.6	99.2
食 堂 ・ 喫 茶	163,405	77.6	98.6
サ ー ビ ス	93,592	90.4	98.8
そ の 他	441,899	93.4	111.1
<b>総 計</b>	<b>7,026,434</b>	<b>104.3</b>	<b>101.9</b>

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショップパースプラザ湯の川店の各店をいう。

業が「変らない」としており、前期並みに推移した。

図-4 今期の資金繰り(対前期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種(9.0)	13.8	81.4	4.8
建設業(8.0)	12.0	84.0	4.0
製造業(2.0)	6.0	90.0	4.0
卸売業(9.1)	11.4	86.3	2.3
小売業(9.1)	15.9	77.3	6.8
サービス業(23.1)	30.8	61.5	7.7

## 5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、「求人難・人材難」をあげる企業が全業種で22.9%とトップを占め、次いで「売り上げ・受注の不振」が22.3%となっている。

次に問題点を業種別にみると、建設業では「求人難」29.2%、「純利益の減少」16.7%、「労務費の増加」12.5%。

製造業では、「売上げ・受注の不振」25.4%、「求人難」23.5%、「原材料高」・「人件費等経費の増加」・「景気の見通し難」がそれぞれ11.8%。

卸売業では、「売上げ・受注の不振」28.7%、「流通経費の増加」19.0%、「純利益の減少」11.9%。

小売業では、「売上げの不振」29.8%、「求人難・人材難」25.5%、「純利益の減少」12.8%、「客足の減少」10.6%。

サービス業では、「求人難・人材難」・「同業者の競合」がそれぞれ33.3%。

来期(10月~12月)の見通し

### 1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」とする企業23.7%に対し、「横ばい」企業66.2%、「悪化」とする企業10.1%で、D Iは13.6とプラス、また前年同期比でも「好転」とする企業21.0%に対し、「悪化」とする企業

業が8.2%で、D Iは12.8とプラスを示している。

業種別にみると、今期比では建設業D I 15.4、製造業D I 18.9、卸売業D I 13.0、小売業D I 16.7、サービス業D I △4.0と、サービス業以外はD Iがプラスを示し、好転を予想している。

また、前年同期比で見ると、すべての業種でD Iがプラスを示している。

このように来期業況見通しは、業種間に大きな格差はみせず、引き続き広範囲にわたる好転基調が予想される。

図-5 来期の業況見通し(対前年同期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種(12.8)	21.0	70.8	8.2
建設業(15.4)	19.2	77.0	3.8
製造業(11.4)	20.8	69.8	9.4
卸売業(2.3)	15.9	70.5	13.6
小売業(21.3)	27.7	65.9	6.4
サービス業(16.0)	20.0	76.0	4.0

### 2. 売上額について

来期の売上げ見通しを全業種で見ると、今期に比べ「増加」とする企業31.3%に対し、「横ばい」企業52.8%、「減少」とする企業15.9%でD Iは15.4とプラスを示しており、前年同期比でも「増加」企業26.4%に対し、「横ばい」企業59.1%、「減少」企業14.5%でD Iは11.9とプラスを示し、増額基調が見込まれる。

次に来期の売上げ見通しを業種別にみると

図-6 来期の売上げ見通し(対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種(11.9)	26.4	59.1	14.5
建設業(16.0)	28.0	60.0	12.0
製造業(8.0)	20.0	68.0	12.0
卸売業(17.4)	37.0	43.4	19.6
小売業(10.6)	25.5	59.6	14.9
サービス業(8.0)	20.0	68.0	12.0

### 【建設業】

今期比D I 16.0、前年同期比D I 16.0といずれもD Iがプラスを示している。

図-2 今期の売上額 (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (11.4)	28.4	54.6	17.0
建設業 (4.0)	24.0	56.0	20.0
製造業 (17.3)	28.8	59.7	11.5
卸売業 (4.5)	26.7	51.1	22.2
小売業 (8.7)	28.3	52.1	19.6
サービス業 (23.1)	34.6	53.9	11.5

9月に入って盛り返す等、比較的順調に推移した。

【製造業】

今期の生産額は、前期比D I 28.0、前年同期比D I 17.3と、いずれもD Iがプラスを示し、引き続き高操業となった。

細業種でも、全般的に増額基調が続いており、特に受注好調な造船業、水産加工業、金属・一般機械器具業では、前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、業績好転している。

【卸売業】

今期の売上額は、前期比D I 17.4、前年同期比D I 4.5と、いずれもD Iがプラスを示し、増額基調で推移した。

細業種で見ると、総じて上向いており、特に医薬品・化粧品業と一般機械器具業、また低迷が続いていた燃料業も前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、業績は好転している。

【小売業】

今期の売上額は、前期比D I 12.4、前年同期比D I 8.7と、いずれもD Iがプラスを示しておし、前期伸び悩んだ個人消費の回復が窺われる。

細業種で見ると、前期精彩を欠いた各種商品販売業では、逆に前期比、前年同期比ともに「減少」と回答する企業がなくなり、また食料品販売業と乗用自動車の好伸が続く自動車販売業も、D Iがプラスを示し、売り上げを伸ばしている。

【サービス業】

今期の売上額は、前期比D I 34.6、前年同期比D I 23.1と、いずれもD Iがプラスを示し、昨年度の高実績をも上回る状況となっている。

細業種でも、すべての業種で前期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し、増額基調で推移している。特にホテル・旅館業と娯楽業の好調から、ポスト青函博の年として、昨年度の反動落ちが懸念された観光客の入込みについても、好実績が窺われる。

図-3 今期の純利益比 (対前年同期比)

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-7.7)	19.5	53.3	27.2
建設業 (0.0)	15.4	69.2	15.4
製造業 (5.8)	25.0	55.8	19.2
卸売業 (-15.2)	17.4	50.0	32.6
小売業 (-21.7)	17.4	43.5	39.1
サービス業 (-4.0)	20.0	56.0	24.0

3. 純利益について

今期の純利益を全業種で見ると、前期に比べて「増加」している企業22.2%に対して、「横ばい」企業53.1%、「減少」している企業24.7%で、D Iは△2.5、また前年同期比でも「減少」企業27.2%が「増加」企業19.5%を上回ってD Iは△7.7と、いずれも若干マイナスを示し、採算面では伸び悩んだ。

業種別にみると、製造業の造船業、小売業の各種商品販売業、自動車販売業、サービス業のホテル・旅館業、娯楽業が増益基調で推移した。

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種で見ると、前期に比べ「好転」した企業13.8%に対し、「悪化」した企業4.8%で、D Iは9.0とプラスを示しているが「変わらない」とする企業が81.4%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

業種別にみると、サービス業 (D I 23.1) が好転しているが、他はすべて70%以上の企

経済の窓

(平成元年度 第2・四半期)

景気動向  
調査

平成元年度第2・四半期（平成元年7月～9月）の函館地域における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	260社	65.8%
建設業	50	34	68.0
製造業	100	65	65.0
卸売業	80	59	73.8
小売業	120	69	57.5
サービス業	45	33	73.3

(注) 本調査結果の中のD Iとある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から、減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

今期（7月～9月）の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業35.2%に対し、「横ばい」企業51.2%、「悪化」している企業13.6%で、D Iは21.6とプラスを示し、更に好調感を増している。

これを業種別にみると、建設業D I 15.4、製造業D I 32.1、卸売業D I 17.4、小売業D I 14.6、サービス業D I 27.0と、いずれもD Iがプラスを示している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業29.2%に対し、「横ばい」

企業54.9%、「悪化」企業15.9%で、D Iは13.3を示し好転している。

これを業種別にみると、各業種ともD Iがプラスを示しており、広範囲にわたって好調に推移した。

このように今期の業況は、公共事業の発注率・発注額とも前年実績を上回り、生産活動、個人消費も順調、また、昨年の反動落ちが懸念された観光関係が昨年並み又は上回る程の勢いをみせる等、総じて好調に推移した。

図-1 今期の業況（対前年同期比）

	(D. I) 好転 横ばい 悪化		
全業種 (13.3)	29.2	54.9	15.9
建設業 (20.0)	32.0	56.0	12.0
製造業 (19.2)	32.7	53.8	13.5
卸売業 (6.6)	24.4	57.8	17.8
小売業 (8.5)	29.8	48.9	21.3
サービス業 (15.4)	26.9	61.6	11.5

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業36.7%に対し、「横ばい」企業46.5%、「減少」している企業16.8%で、D Iは19.9とプラスを示し、増額基調で推移した。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」企業28.4%に対し、「横ばい」企業54.6%、「減少」企業17.0%で、D Iが11.4とプラスを示し、業績は昨年実績を上回っている。

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 7.7、前年同期比D I 4.0と、いずれもD Iがプラスを示している。

細業種で見ると、職別工事業と設備工事業は横ばい状態だが、総合工事業は増額基調で推移した。

このように今期の建設業界は、公共事業が発注率・額とも前年度を上回り、個人住宅も